



屋仁(やに)※方言名：ヤン

笠利町の西側に位置し、東シナ海を望む蒲生崎観光公園がある屋仁集落。
展望台からは笠利・龍郷、晴れた日には遠くカラの島々も展望できる絶景ポイントです。自慢のブランドはターマンと呼ばれる田イモで、水田を利用した田イモづくりが受け継がれ、奄美市一集落1ブランドに指定されています。



フーグスク (フーグスク)

北に開けた屋仁集落の後方には屋仁川が流れ、川を挟んだ東南の山にはフーグスク、ミャーデラの位置する山がある。この山一帯は集落の人々が、神山として大切にしている。
フーグスクはその山の麓に位置し、やや高台をなしている。試掘調査では青磁片や白磁片が出土し、中世13世紀頃の遺跡であることがわかる。



蒲生神社一帯

蒲生神社には、大鏡(文化3年/1806年)・石塔(享保10年/1725年)・鐘(宝暦元年/1752年)や、弁財天像(山田隆介作)がある。神社にはミヤテラサマが氏神さまと一緒に祀られていることから、平家伝説にまつわる蒲生左衛門とあわせて三柱が祀られているという。
また、下の海岸には蒲生左衛門が海中に積んだと伝えられている石垣もあるという。



ガジュマルの木(屋仁小学校)

屋仁集落には大きなガジュマルがいくつか残るが、その中でも子供たちが木登りやツリーハウスとして使っている大きな卒業記念樹のガジュマルが小学校にある。



蒲生崎への古道

屋仁集落は西側も「カモザキ」「フーピラ」「ヤンチヂ」と大きな山が連なっており、東西が山に囲まれた地形になっている。麓には古道があるが、それは神道とも参詣道とも言われている。いずれにしてもカモザキには平家伝説の見張所と蒲生神社があり、ここも神山として扱われている。屋仁集落は東西二つの神山に守られている。



郷の鎮 (忠魂碑)

フーグスクの南側には忠魂碑や開拓の碑のある山がある。ここには屋仁集落から出兵し、戦死された多くの若者たちの名前が刻まれている。毎年8月15日には、集落の皆さんにより慰霊祭が行われている。また、石碑はほぼ長方形をなし、中世の礎石に類似していることから、礎石を再利用したのではないかと考えられている。



石垣

屋仁集落の屋敷囲いは、そのほとんどがサンゴの石垣とガジュマルで屋敷林をなしていたという。現在は、集落中央付近の路地にある屋敷囲いの石垣と、川沿いにある石とサンゴ石を組み合わせた石垣とカジュマルが、往時を偲ばせる屋仁の風景としてわずかに残っている。



神道

屋仁集落には、集落東側の「イシギョ」から川伝いの細い道を通り、集落中央を西に蛇行し、蒲生の山道に続く神道がある。それぞれの道は人が通れるぐらいの道と、人も通れないぐらいの細い道があり、神様が通る「神道」として残されている。



屋仁のターマン

集落の後方南側に屋仁川が蛇行して流れ、大きく湾入した田袋が広がっている。笠利地区の西海岸はリアス式海岸で、大きな田袋を有する。「屋仁のターマン」は「ユビタ」と呼ばれる深い水田に小規模に栽培されていたが、水量が豊富な地の利を活かして、近年盛んに栽培されるようになった。